

愛郷  
無限

土屋館  
どや  
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街  
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035  
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2013年11月27日号 NO.432

写真提供：大崎市

## Subject：リーダーシップ

NHK/Eテレ（昔で言うところの教育）で人気の番組【白熱教室】、現在、ハーバード大学ケネディスクールで30年以上続くロナルド・ハイフェッツ教授のリーダーシップ論が全6回シリーズで放映されています。

「リーダーシップと権威とは別のものである。リーダーシップとは問題を解決できる能力のことで、誰でも「型」に沿ってトレーニングと教育で獲得できることである」

「リーダーシップは、人々が目をそらしている問題を取り上げることから始まる。だから人々の反感を買い、危険な目に合うこともある」

日本では【リーダーシップ＝権威】と一般に認知されています。しかし欧米のトップはそうは考えない。権威とリーダーシップは別に分けて考える必要があると説いています。そしてリーダーシップとは、「進行具合への評価」と「結果への責任」とが常に切り離せないものであると。一方、親方日の丸主義の日本人では権威＝リーダーシップと考えているので、責任の所在が曖昧になり、そして人任せ、責任回避（連帯責任という名の）の傾向を助長させています。「こういう道を示されて応援したけど、結果は最低だった。仕方ないな、お上がダメだから。俺らには何もできないけどよ」と全く他人事。

逆に言えば、責任を回避したい、面倒なことから逃れたい風潮が一般的だからリーダーシップが育成されない、発揮されないとも言えるでしょう。宮崎駿監督が言っています。

「世の中の大切なことは、たいてい面倒くさいもの」と。

発明王エジソンが創業して、現在世界最高の優良企業と評されるGE（ゼネラルエレクトリック）。そのカリスマ元CEO/ジャックウェルチの愛弟子として上席副社長を務め、トステムとINAXが合併したリクシルの代表取締役を務める藤森義明氏は、ウェルチ直伝GE流のリーダー育成を最重要視しているそうです。藤森社長の実践するリーダーシップは【変革】と【後継者育成】。欧米流のグローバリズムの競争原則など日本人には肌に馴染まぬ面も確かに含むものの、しかし、ことリーダーシップ育成に絞って切り離して考えれば日本にも我が地域にも非常に大切なものであると思います。

各自が意識し訓練をすればリーダーシップが発揮できる。欧米流に染まれというのではありません。和魂洋才、日本人の特性は捨てずに、しかし欧米のシステムとしての良い部分は吸収し、そして咀嚼すること。リーダーシップ不在と言われている現世において、当地の若い世代も意識して取り組まねばならない課題なんだと思います。

既に第四回まで終えて、今週末は第五回となります。

◆第5回 【難題と向き合おうじゃないか】

11月29日（金）Eテレ 23時～午後23時54分

山積する問題を解決してくれるリーダーの出現を人々は待っている。しかし、誰かがリーダーシップを発揮することで突然、現実の問題の解決策が生み出されるわけではない。

「君たちの役割は、不平不満を述べることじゃない。リーダーシップを自ら発揮することだ」ハイフェッツ教授はそう言う。われわれ自らが直面している難題に各々自らが正面から向き合うしかないのだ。そうすることでしか、真の改革へ近づく方法はないのだ。

◆第6回 【世界が君をまっっている】

1 2月6日（金）Eテレ 23時～午後23時54分

なにか問題を解決しようとするとき、人々に損失を我慢してもらう必要があることが往々にして起きる。するとすぐに周囲から反発が起きる。

そんなときは孤立しないようにすることが大切だ。また、ときにはその場から離れ、全体を見渡せる場所＝バルコニーに上がってみることも欠かせない。

説得しなければならぬ相手がその改革で何を失い何を失う必要がないのか、正しく見極めることが欠かせないからだ。そして再び現場に戻るのだ。

NHKホームページの特設サイトはこちら：

<http://www.nhk.or.jp/hakunetsu/leadership/index.html>

ちなみに過去の講義のテーマは：

第1回 リーダーシップとは何だ？

第2回 リーダーシップは資質ではない！

第3回 大統領はなぜ失敗したのか

第4回 1%の変革が世界を変える

いずれ再放送が必ずあるはずですので、今回見逃した方はぜひ見て欲しい内容です。